

令和4年度第1回白馬村地域公共交通検討委員会 会議概要

招集年月日	令和4年7月22日(金)
招集の場所	白馬村役場302会議室
開催時間	午前14時00分～15時18分

■委員

白馬村 副村長	横山 秋一	○
学識経験者 (株)日本観光コンサルティング※代理出席:横澤勲	有角 秀樹	○
公募委員	鈴木 均	○
公募委員	田代 雅子	○
白馬南小PTA会長	吉田 聡	○
白馬村民生児童委員	高橋 誠	○
(一社)白馬村観光局事務局長	福島 洋次郎	○
アルピコ交通(株)白馬営業所長	工藤 秀行	○
アルプス第一交通(株)担当取締役	戸田 忠徳	欠
アルピコタクシー(株)大町支社長	薄井 浩章	○
白馬観光タクシー(株)代表	風間 雅裕	○
白馬村役場 観光課 観光商工係長	矢口 浩樹	○
白馬村役場 健康福祉課 福祉介護係長	太田 俊祉	○
白馬村役場 教育委員会教育課 教育係長※代理出席:穂谷圭祐	中村 由加	○
白馬村シニアクラブ会長	横川 義男	○

■事務局

白馬村 総務課長	吉田 久夫	○
白馬村 総務課 企画調査係長	山岸 大祐	○
白馬村 総務課 集落支援員	渡邊 宏	○

1. 開会 <吉田総務課長>

2. あいさつ <横山副村長>

(1) 補足事項

「白馬村執行機関の附属機関の設置等に関する条例」、「白馬村地域公共交通検討委員会規則」及び構成員の確認<山岸係長>

3. 委員自己紹介 <各委員>

4. 委員長及び副委員長の選任

委員長にアルピコ交通（株）白馬営業所長の工藤秀行氏、
副委員長に白馬観光タクシー（株）代表の風間雅裕氏をそれぞれ選任した。

5. 報告事項

(1) これまでの公共交通体系と令和4年度の運行計画について

- ① 観光課：HAKUBAシャトル（ナイトシャトルバス）事業について
資料1により観光課矢口係長が説明
- ② 教育課：スクールバス試験運行事業について
資料2により教育課穂谷主査が説明
- ③ 健康福祉課：デマンド型乗合タクシー事業について
資料3により健康福祉課太田係長が説明
- ④ 総務課：公共交通体系の基本的な考え方について
資料4により総務課山岸係長が説明

(2) 質疑

質疑なし

6. 協議事項

(1) 今後のスケジュールと検討内容について

資料5により総務課山岸係長が説明
→ 賛成多数により承認された。

(2) 意見交換

- ・吉田総務課長：今ある交通資源をどう使ってどのような村の公共交通を作っていくのかを委員の皆様には担っていただきたい。
スクールバスと観光用のバスの利用時間帯が重なったり、観光と住民の使い方は同じように見えて異なるため難しい部分もあるが、事務局としては、必要な資料を提供していくので、それを見ながら考えていただきたい。各担当課に直接聞くことでも良い。
- ・鈴木委員： 資料1のp4に「2024～25シーズンを目途に検討…」と書かれている。次ページの来年度予定事業にはAIオンデマンドシステムが書かれているが、それ以外の事業は書かれていない。地域交通全体の最適化というが良く解らない。来年度のスキー場のシャトルバス、スクールバス、デマンドタクシーの3事業は現状のままということか。
→観光課矢口係長 資料1のp4までは、スキー場のシャトルバスの統合が可能かという検討をした内容と結果等であり、コロナの影響により保留にしていた検討を再開したいということを書いたもの。来年度は今までどおり運行することとしている。

また、p5からはナイトシャトルをAIオンデマンドによる実証実験を行うことについて書いたもの。

→吉田総務課長 予算について、ナイトシャトルについては、かつてJRの発着に合わせた時刻を設定したが、住民は全く乗らなかったということもあり、スキー場シャトルと同様に切り離さざるを得ないとする。

スクールバスについては、2年間実証実験しているが、今までしてなかった夏の状況を見ながら予算要求をしていくことになる。

デマンドタクシーについては、R5年度の本体会議に向けてどういう運行形態にするのかという方向性を決め、本体会議で検討の上で決定されたものを基に予算要求していくことになる。

それぞれの運行が来年どうなるかは、現時点では言えないが、早ければR5年度である程度の方向性が決まれば、公共交通という位置付けでの予算化が可能かと思う。

・鈴木委員： スキー場のシャトルとナイトシャトルについては書かれているが、夏の白馬シャトルについての記載がない。

→村観光局福島事務局長 花三昧の時期と終わった後に夏の白馬シャトルを3年間継続してきたが、費用対効果の面とコロナ禍ということもあり、今年度から取りやめた。

・鈴木委員： スキー場のシャトルとナイトシャトル、白馬シャトルがあり、解りにくい。名前を変えれば良いということではないが、解りやすくした方が良いのでは。

→総務課山岸係長 「ナイトシャトル元気号」という名前を夏冬とも「白馬シャトル」と統一した経過がある。

・鈴木委員： 村内を循環するバスとスクールバス、スキー場のシャトルを含めた全体的な統合について今日は提案がなかった。それがなく各事業を継続するのであれば、検討も進まないのではないか。

→吉田総務課長 スキー場のシャトルは一元化する方向でいるが、公共交通との一元化はできないということは皆さんの理解を得られていると思う。住民の足をどうするかという本来の公共交通を考えた時に今ある資源を活用することが一番で、例を挙げればスクールバスを通年でやっていく場合、車両を借りて村が運行しているので、その車両を日中も使えるのか、借りた車に見合った人数が乗るのか、それを検討するのがこの組織となる。

事務局で提案することもできるが、その場合は行政が一方的にやっていると言われかねないので、皆さんで考えていきたい。

スクールバスも今は大型やマイクロバスを使っているが、少子化の影響で利用が少なくなりタクシーで対応できるとなると、デマンドの拡充で充分ではないかという意見も出てくる可能性もある。

資料の整理は事務局で行うが、その中で色々見ながらどういう運行の仕方が良いのか、これだとなかなか難しい等を議論していただきたい。

- ・鈴木委員： スキー場シャトルと循環バスとは合体できないということか。
→吉田総務課長 路線が重複することはあるかもしれないが、目的地や経由地が違えばなかなか使えないということになるので、その場合は専門家の意見を聞きたいが、観光と住民の足を一つにすることは厳しいと感じる。
- ・鈴木委員： 難しいことは以前から出ていたが、それを含めて検討するということではなかったか。
→吉田総務課長 スキー場のシャトルは、一元化することにより経費が下がることになると思うが、別組織であり無料で行っており結果的にかなり厳しい状況なので、重ねて考えるよりシンプルに住民の足として考えた方がやり易い考える。一部路線が重なるところについては、時間をずらすこと等により後で対応することも考えられる。

7. その他

特になし

8. 閉会 <吉田総務課長> 15:18 終了